



三者面談用(2年生向け)

1号 杉戸高校進路指導部 令和2年6月22日発行

今日から三者面談が始まります。2年生は3年生での科目選択を決める重要な時期です。自分の受験科目をしっかりと調べ、悔いのない選択をしてください。なお、来年の今頃は具体的に志望校の話をしている時期です。今から新入試の情報を集めつつ、家庭学習の習慣を早く身に付けましょう。

【入試のスケジュール】

新入試の特徴とスケジュールをまとめてみました。詳しくは『進路ガイドブック』をご覧ください。なお、国公立大学の一般選抜の日付に関しては、毎年変わりますのでご注意ください。

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総合型選抜		出願 (9/1以降)		発表 (11/1以降)						
学校推薦型選抜				出願 (11/1以降)	発表 (12/1以降)					
一般選抜	国公立大		大学入学共通テスト		出願 ※1	大学入学共通テスト 個別学力試験出願 1月下旬～2月上旬	前期試験 2/25～	発表 3月上旬	中期試験 3/8～	発表 (3月下旬)
	私立大 共通テスト利用			出願 ※2	個別試験(2～3月)		後期試験 3/12～	発表 (3月下旬)		
	私立大 個別入試			出願 1～2月	個別試験(2～3月)					

◆出典：文部科学省「高大接続改革の実施方針等の確定について」(H29.7.13より作成)

※1：大学入学共通テスト前に出願の締め切りがある大学・学部の場合

※2：大学入学共通テストの結果を見て出願できる大学・学部の場合

●総合型選抜(旧AO入試)

大学が、受験生の持つ個性や能力を、じっくり時間をかけて判定する人物重視の入試です。書類審査や面接などかなりの時間をかけ、その大学にふさわしい人物かどうかをじっくりと審査します。新入試からは、学力的要素も問われる入試※3になっています。

●学校推薦型選抜(旧指定校推薦、公募推薦)

第1志望校にチャレンジする機会は増えますが、一般選抜に向けて追い込みを始めている11月・12月に負担が増え、受験勉強の時間が大きく削られることが考えられます。近年、倍率が高く合格率が下がっている傾向もあるため、一般選抜も考え、十分な計画と準備をしておく必要があります。新入試からは、学力的要素も問われます※3。

【指定校推薦入試】

大学側が指定した高校だけを対象とした推薦入試です。出願条件は大学によって異なりますが、一般的に、評定平均値などの出願条件は厳しいです。また、英語外部検定のスコアを出願条件にしているところもあります。本校の指定校に関しては、『進路ガイドブック』に掲載されている「昨年度指定校一覧」をご覧ください。なお、昨年は指定されていたが今年は指定されない、あるいは出願条件が変更される等ありますので、ご注意ください。近年、指定校推薦でも大学側の基準を満たさなければ不合格になることもあります。

【公募制推薦入試】

大学が定めた条件を満たし高校の推薦を得られれば、誰でも出願できます。指定校推薦に比べると出願条件はやや緩やかですが、小論文や面接、学力試験等を実施する大学がほとんどであり、事前の準備がかなり必要です。また、高校生活において、勉強はもちろん部活動その他自発的に取り組んだこと、頑張ったことを語ることでできる人物でなければ公募制推薦を安易に受験しても合格できません。

●一般選抜

【国公立大学】

まず、1月に実施される「大学入学共通テスト」を受験し、その後、志望大学に出願、それぞれの大学が実施する「2次(個別)試験」を受験します。2次試験は、前期日程と後期日程の2回の試験日が設定されています。どちらか一方を受験してもよいですし、2回とも出願することもできます。前期と後期で異なる大学に出願してもかまいません。ただし、前期日程で合格して入学手続きをすると、後期日程の合格対象者にならず、入学もできません。

【私立大学】

私立大学の一般選抜は多様です。試験の名称は、個別入試・共通テスト利用入試・全学部統一入試・英語外部検定利用入試などがあります。試験によって受験科目や倍率が異なるため、受験スケジュールを立てる場合は、必ず各大学の大学案内や募集要項等で調べて考えましょう。

【今やっておくべきこと】

1 授業の本質的理解および英語外部検定への挑戦

今までは知識・技能重視の入試でしたが、新入試では、複数の情報を組み合わせて考えをまとめたり、説明する力が問われたりします。そのため、日頃の授業から「なぜそうなるのか?」「どうしてそうなるのか?」に重点を置いて理解するようにしましょう。また、外部英語検定試験の導入も始まります。希望者は校内で英語検定も受験することができます。希望大学が外部英語検定試験を導入しているか調べ、積極的に資格・検定試験にチャレンジしましょう。ただし、大学によっては取得期限を設けているところもありますので、注意が必要です。

2 活動履歴・経験の蓄積

これからの入試は、「学ぶ姿勢・態度」「主体性」なども評価の対象になります。そのため、これまで推薦入試で多く活用されてきた調査書や志望理由書が一般入試でも活用されていく動きがみられます。調査書や志望理由書に書くのは高校での活動履歴です。例えば部活動、ボランティア活動等に対して、何を考え、どのように努力したのか、「過程」を含めて記入をしましょう。大学はその過程も見て、受験生の主体性や学ぶ姿勢・意欲を判断するそうです。活動履歴を残しておく、いつでも振り返りができて、やる気を高められます。「杉高手帳」「Persanary」をぜひ利用してください。また、「今回はこうだったから次はこうしよう」とスムーズに活動を進めるきっかけにもなります。ですから、入試のためだけでなく、自分の成長のためにも記録を残しておきましょう。

※3 小論文、プレゼンテーション、口頭試問、教科・科目試験、共通テストのいずれかが必須化されます。詳しくは各大学の大学案内等をご覧ください。